

歴史都市における水辺空間デザインプロジェクト

代表：理工学部・准教授 阿部 俊彦

研究メンバー：花岡 和聖、武田 史朗

昨年度は、亀岡市との委託による「流域空間デザイン検討会議」の企画、運営を行い、度重なる洪水を受け止めながらそれを受け止める田園景観と山林の景観を豊かな景観資源として維持してきた歴史都市としての亀岡市における、流域治水時代のまちづくりに向けた検討会議からの提言として「気候変動への適応施策を踏まえた複合的なまちづくりの重要性とその大きな方向性」を取りまとめた。その取り組みに基づき、今年度は、大学生による市民へのヒアリングや現地観察を踏まえた国際的ワークショップを実施した。

ワークショップでは、昨年度開発した流域治水を前提とした堤内地を対象とした面的な雨水貯留可能量の計算を行うグリーン・ブルースポット（GBS）を用いて把握した、亀岡市の保津川流域における雨水貯留可能量やその分布データを活用し、8つの重点エリアを対象とした8班に分かれて、亀岡市における流域時代のまちづくりの方向性に関するアイデア出しを行い、行政や地元関係者に向けて、その成果をホームページで発信した。また、新聞にも取り上げていただいた。

1. 亀岡市における流域治水時代のまちづくり国際学生ワークショップ

ワークショップには、千葉大学、京都大学、立命館大学、デルフト工科大学、筑波大学、京都先端科学大学の学生35名のほか、教員、地元住民も参加して、11月19日～22日に開かれた。

19日、20日は、フィールドワークを実施し、曾我谷川や七谷川などの河川流域エリアのほか、亀岡駅、平和池、東別院町の山林など、周辺エリアも見学した。見学と並行して、学生たちは8班に分かれて、それぞれアイデアを出し合い、22日のサングスタジアムでの最終発表会で成果のプレゼンテーションを行った。発表会には、亀岡市長、観光協会会長、森林組合長をはじめ、地元企業や市役所の担当職員の方々の参加のもとで開催された。



写真1 ワークショップの作業の様子



写真2 市長も参加した成果発表会の様子

2. 各班の提案内容

ワークショップでは8班に分かれて、1) 京都・亀岡保津川公園エリアでは環境と共生する地域資源循環型公園の提案、2) 平和池跡地エリアでは生態系保全と雨水貯留の仕組みの提案、3) 亀岡駅南口－南郷公園エリアでは、レインガーデンの整備による駅前の再生、4) 安町大池エリアではため池の調節緑地化による農園公園、5) 河原林町－保津町エリアでは田んぼダムを活用した歴史及びグリーンツーリズム、6) 愛宕谷川山林エリアでは山林の資源化と合わせた関係人口コミュニティ、7) 七谷川流域では地域の歴史資源・自然資源を活用した農村観光、8) 曾我谷川流域では天然記念物アユモドキの生息域を活かしたビオトープの提案などが提案されました。

講評として、デルフト工科大学のステファン・ナイハウス教授から、「気候変動を迎える今、提案されたアイデアを実現するために、長期的なランドスケーププランニングの重要性が地球規模で重要になっていること、そのための分野横断、主体横断的な取り組みが必要がある」とコメントを頂いた。

3. 成果の情報発信

ワークショップで提案されたアイデアを関係者と共有し、プロジェクトを具体化していくために、ホームページ <https://kameoka2070.com/> で発信した。また、京都新聞（丹波版）により地元関係者に周知された。

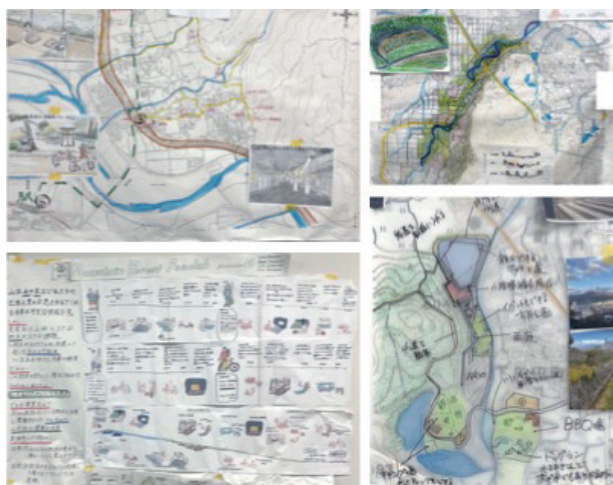


図1 ワークショップの成果物の抜粋



写真3 2013年12月10日の京都新聞（丹波版）より